

五月晴れ



小学部新1年生が入学してきてもうすぐひと月。担任の玉井先生のうしろに、きちんと一列に並んで、教室の移動をしている様子が毎日見られます。小学校にも馴染み、元気いっぱいです。

5月になり、アブダビではかなり暑くなってきましたが、日本では、5月5日は端午の節句。初夏のすがすがしい季節の中で、たくさんのこいのぼりが大空に泳いでいることでしょう。

日本人学校の中庭でも、五月晴れの空の下5mのこいのぼりが泳いでいます。日本人が、こどものかひのびとした成長を願う行事です。

アブダビ日本人学校の教育活動もエンジン全開、今月からは、そろばん教室が始まります。集中力、計算力を養います。水泳授業、修学旅行と目白押しです。弁当システムも新メニューやクーポンシステムも始まり順調です。中学生は、中間テストもあります。1日1日コツコツとした学習が成果をあげます。



道徳教育

UAEでは、先日、全国の校長をドバイに集めて道徳教育の研修会を開催し、全ての学校に道徳教育を取り入れることになったそうです。

そこで、プロジェクトチームや研究校をつくり、アブダビ日本人学校に道徳を教わりに来たいとのこと。教えるのはいいのですが、日本人が道徳心を持っているのは、決して教科書のみで教育しているのではなく、生まれてからの家庭教育、地域の教育力、学校の教育力等が相まって子どもの人格形成、道徳力の育成をはかっているからということをお忘れはいけません。生まれてからの毎日の一場面一場面が道徳教育になっているのです。雑誌にいい話が載っていましたのでご紹介します。



ある日のことです。エレベーターに、小学校の低学年と思われる女の子と、その母親が乗り込んできました。

私の顔を見た小学生の女の子が「おじちゃん、こんにちは」と言って頭を下げました。びっくりして私も「こんにちは」と言って軽く頭を下げました。その後「えらいわね〇〇ちゃん。知らないおじちゃんにもごあいさつができるなんて……」と、お母さんが褒めているのです。

私は、この子どもさんも素晴らしいと思いました。お母さんがその場で、「えらいわね〇〇ちゃん。知らないおじちゃんにもごあいさつができるなんて……」と言われたことがすごく印象に残っています。知らない人どころか、知っている人にも声をかけてはいけないような時代になってきていますが。

昭和女子大教授であった外山滋比古先生は「子どもにとって最初の、そして最大のしつけは『言葉』である。一般に子どもに言葉を教えることを、親の役割と考えていない。言葉をしっかりしておけば、しつけのもとができるわけで後々のしつけも順調に行われる。言葉こそ、本当のしつけである。これをないがしろにして、あとの行儀作法のしつけをしようとしてもうまくいくわけがない」と述べています。この先生のお話から、言葉は人を育てる基本であるということをお改め知らされました。私たちが使っている言葉は、わが子に強い影響を及ぼしているのです。ですから、私たちは「言葉遣いは、心遣い」だということをお忘れてはいけないと思っています。

ある本には、「やさしい言葉には、やさしい心が/あたたかい言葉には、あたたかい心が/ていねいな言葉には、思いやりの心が/きつとたくさん詰め込まれているだろう」と書かれていました。

今日の私たちの社会では、世間を揺るがす特異な事件が起こっています。子どもの中の何かが変わろうとしています。保護者の皆さん、このような時だからこそ、「言葉は人を育てる基本であること」をもう一度考えてみませんか。雑誌PHPより

